

## 内閣府 OKINAWA41 名桜大学生による学生記事 2 (2020 年度) 「ニューノーマル」における沖縄観光を考える－沖縄ダムツーリズム－

公立大学法人名桜大学国際学群観光産業専攻  
教授 大谷健太郎

### ◆テーマ：

「ニューノーマル」における沖縄観光を考え、一つの魅力としてのダムをレポートする

### ◆コロナ禍における大谷ゼミ活動の方針について

- ・ 多少の価値観の差はあるが、リスクを高めてまで無理矢理フィールドワークや外部との接触を積極的に行っていくことは困難なので、可能な限りの活動を探り、状況に応じて臨機応変な活動を検討していく
- ・ ゼミでは 2019 年度から内閣府沖縄情報サイトの OKINAWA41 への記事投稿を行い、2020 年度前半はコロナ禍もあり、『「ウィズ/アフターコロナ」の沖縄観光に関するミニ意見』を OKINAWA41 へ投稿した
- ・ 2020 年度後期は、引続き外部との接触を伴うフィールドワークを避け、最小限の人数に分かれたグループで、野外での体験、写真の撮影、魅力発信記事作成のための記録などに限る活動によって「沖縄ダムツーリズム魅力レポート」の記事を作成する

### ◆大谷研究室における記事作成の前提と基本方針

まず、大谷研究室の記事作成に関する前提と基本方針を以下の様に整理する。

- ・ 3 密を避ける屋外での観光的な行動、活動（会話や食事機会等を回避可能）
- ・ 2020 年 11 月 17 日、沖縄ツーリズム産業団体協議会のなかで沖縄県は「来年度の方向性として国内の取り込みに比重を置き、安全安心な観光地づくりに資する事業」を進める方針を示し、国の方向性としても国内観光とコロナ終息後を見据えたプロモーションを充実させる方針であること<sup>1</sup>
- ・ 既存の施設や資源を活用し新たな負荷のかからない観光メニューという観点からは、SIT としてのインフラツーリズムの情報発信が観光事業として有効と思われること<sup>2</sup>
- ・ 2016 年の政府による『明日の日本を支える観光ビジョン』では観光資源の魅力を高める施策の一つにインフラツーリズムを掲げ、沖縄県北部地域のダムは国土交通省が推進する「インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト」でも取り上げられていること<sup>3</sup>
- ・ さらに水源地の振興のため、ダム湖や周辺資源、学習要素など自然の魅力を生かした「沖縄北部ダムツーリズム」が沖縄総合事務局によって 2015 年から取り組まれていること<sup>4</sup>

以上のような考え方をもとに、2020 年度大谷研究室 3 年次 14 名の学生が中心となってコロナ終息後の観光需要を喚起するための一つとしてのダムの魅力に関する記事を作成していきます。ダムは観光の主目的にはならずとも立寄りや周遊における観光メニューの一つになり得るものであり、ダムの構造やアクティビティ、絶景など既存の情報に加えて学生らしい視点からの楽しみ方を(少し)レポートできたらと考えています。

2020 年 12 月 大谷健太郎

<sup>1</sup> 沖縄ツーリズム産業団体協議会 [https://www.ocvb.or.jp/okinawa\\_tac/reports/detail/3503](https://www.ocvb.or.jp/okinawa_tac/reports/detail/3503)

<sup>2</sup> 大谷健太郎 (2016) 「SIT としてのインフラツーリズムと観光事業に関する基礎的考察」土木学会西部支部沖縄会『第 5 回技術研究発表会発表プログラム・概要集』pp.43-46

<sup>3</sup> 国土交通省 インフラツーリズムポータルサイト <https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/infratourism/>

<sup>4</sup> 沖縄総合事務局 沖縄北部ダムツーリズム <http://www.dc.ogb.go.jp/toukan/dam-tourismrimum/menu.html>